

平成22年度 長崎市提案型協働事業「中間報告（継続審査）・2次審査」結果一覧

2次審査					中間報告（継続審査）								
種別		市民提案型			種別		市民提案型						
団体名（担当課）		NPO法人 新現役の会長崎センター（市民協働推進室）			団体名（担当課）		体験学習クラブさ〜くる（障害福祉課）						
事業名		団塊シニア世代セカンドデビュー応援事業			事業名		ワカモノ「SMILE」サポートセンター事業						
事業費総額（円）		1,069,000	市負担額1,000,000	審査結果	採択	事業費総額（円）		1,875,000	市負担額1,500,000	審査結果	採択		
審査項目	配点	各審査項目平均点	審査会コメント			審査項目	配点	各審査項目平均点	審査会コメント				
①	事業の目的	10	8.0	企画書や協議報告書等の内容から、2次審査会までの調整期間において、（1次審査会の結果を踏まえたうえで）提案団体と担当課の調整により改善がなされ、事業実現の展望についても見通しを立てることができた。また、今回の調整期間において、互いがコミュニケーションを深め、本審査会に臨んだことも十分に評価したい。 ただし、依然として将来の継続性に不安を抱える事業であり、チャレンジ精神に加えて、実際に走り（実施し）ながら検証を重ね、よりよい方向へとシフトさせる柔軟性を持って取り組んでほしい。特に、「手渡し配布」においては、誌面づくりに直結するモニタリングに重点が置かれるため、今後の提案団体のネットワークの広がりにも期待がかかることである。 さらに、今回の「ツールの構築」（情報誌の作成）による最終的な目標は、これをきっかけとして「セカンドデビュー」するターゲット（団塊シニア世代）が増えることであり、将来的には、ツールの先にある目標を目指した事業展開を期待したい。			①	協働のプロセス	15	12.0	現在、行政の行き届いていない分野での事業であり、社会的にもますます必要性が高まっているため、今後も継続が望ましい事業である。また、実施体制の役割分担においても、提案団体と担当課がしっかりと連携し、よい関係を築けていることにも注目したい。 なお、今後の課題は、企画書にもあるように「事業効果・成果の可視化」である。利用者への「場の提供」に重点を置く現状も理解できるが、将来的な継続にあたり、行政側の明確な意思をもって事業の位置づけを示すことも求められるため、より専門性・透明性を高める仕組みを検討すべき段階にあると考える。 そのため、事業への第3者からの視点として、専門家のチェック機能や外部（関係機関）との意見交換等を探り入れることや、ボランティアリーダーとして活躍しているスタッフに加え（彼らの専門性は十分に評価したうえで）、外部ボランティアを受け入れる体制を整える等、市民参画に向けて門戸を開くことも一案である。 さらに、今回、中学生の保護者から養護教員へと対象を方針転換したことで成功した周知方法の改善に加え、もう一歩進んだ「対象者の発掘」にも力を入れていくことを期待したい。		
②	事業の実現性	15	12.5				②	目的・目標の達成度	10	8.0			
③	協働の役割分担	5	4.0				③	市民の満足度	5	3.0			
④	協働による効果	15	12.0				④	協働の相乗効果	10	7.7			
⑤	費用の妥当性	5	3.5				⑤	事業の継続性	10	8.0			
合計点（点）		50	40.0	合計点（点）		50	38.7						
得点率（％）		100	80.0	得点率（％）		100	77.4						
中間報告（審査対象外）													
種別		団体名（担当課）		事業名		審査会コメント							
行政提案型		NPO法人環境カウンセリング協会 長崎（環境保全課）		地球温暖化対策市民ネットワーク構築事業		ネットワーク構築に向けた協議やワークショップ等を重ね、事業が順調に進んでいることは評価できるが、つながり（ネット）を広げることばかりに重点を置いており、実施体制が見えない（ワーク（＝作用）していない）という声が多く挙がった。 そのため、今後は、プラットフォームの環境整備に加え、市民レベルでの運動や行動が見えるよう、実動部隊がホームから出ていくイメージへとシフトすることを期待したい。							
市民提案型		NPO法人DV防止ながさき（男女共同参画室）		若者DV防止啓発事業		事業実績はほぼ予定の目標を達成しており、翌年度以降の担当課との明確な事業継続への合意も得られているため、成果については申し分ないものと評価できる。 一方で、翌年の計画としては、2年目にして授業の実施校が実質減少することも否めず、残念に感じるため、担当課に対しても、事業が（結果的に）後退しないよう協働を進めることを期待したい。 また、今後は、法人の人材育成や運営資金等のマネジメント面についても力を注ぎ、例えば、出前授業の様子を映像化して（教職員の研修用等）教材として販売を行う等、実施体制の強化や法人の収入アップへとつなげることも提案したい。							
行政提案型		四季美（農林整備課）		里山姫椿体験事業		実施体制の役割分担における連携や、地域としても密接な関係を築けていることは評価できるが、全般的に、提案団体の努力に対し、（団体を活かす使命のある）担当課としては力不足を否めない印象を持った。 協働事業としての新たな事業展開が見込めない点については、姫椿の大幅な植樹や椿油の製品化の計画が困難である（ここ数年では目途が立たない）背景もあるが、今後「あぐりの丘」のイベントの一項目として終わらせないための展開は、依然として担当課側に求められている。 そのため、まずは地域活性化の視点から、例えば、自治会をはじめPTA等、特に地域の元気な女性を巻き込む（事業への理解・賛同を得る）ことで、商品のブランド化や産業化へとつなげるためのきっかけづくりにも力を注ぐ等、団体の活動の火を消さない方策や今回の協働事業の次のステージへと導くアイデアを期待したい。							